

奈良女大家政 ○黒崎由利子
梁瀬 度子
花岡 利昌

1. 冬季において隙間風は体感温度を下げ、室の暖房負荷を大とする。特に冬の季節風の強い地域では主風向側を全部壁にしたり、あるいは防風林をめぐらしたりの工夫が従来から行なわれてきている。島根県簸川平野の民家には、西側または西側および北側に方形に刈込まれた防風林があり、散村状に散らばって印象的な景観をつくっている。今回は同地において防風林の効果を追求すべく風速、気温、気湿の測定を行なった。

2. 風杯型風程式風向風速計を防風林の西方 10 m の平地に固定し測定を行ないつつ、熱線風速計を用いて防風林と家屋の間の風速の測定を行なった。気温、気湿の測定には、電子管式自動平衡記録計 ST-3200 型にサーミスター抵抗温度計を組み合わせたものを使用した。

3. その結果 イ)防風林の内側の風速は防風林によって外側の風速の3分の1程度に落とされる。

ロ)最多風向が西と西北西であるため、南面した室はほとんど外の風の影響を受けず暖かである。一方、北面した室は多少隙間風が入るため、風力4~5の日の暖房効果は、風力0の日の暖房効果より劣る。